

令和5年度第2回東京都健康推進プラン21推進会議 評価・策定部会における主な御意見

1 部会の目的

最終評価や次期計画の策定に向けた検討を行うとともに、今後の具体的施策も検討する。
 第一部会は主に総合目標、領域1、第二部会は主に領域2、第三部会は主に領域3を所掌する。

2 開催日時

第一部会 令和5年11月13日(月曜日) 午後5時30分から午後7時30分まで
 第二部会 令和5年11月15日(水曜日) 午後5時30分から午後7時30分まで
 第三部会 令和5年11月20日(月曜日) 午前10時00分から正午まで

3 議事

東京都健康推進プラン21(第三次)素案

番号	部会	項目・分野	御意見
第2章 プラン21(第二次)最終評価			
1	第二	第3節 (コロナの影響)	「食生活の変化が見られ、こころの健康が生活習慣に影響を与えていることが分かりました」とあるが、肥満傾向の方も若干増えているだろうし、心身共に健康に影響を受けていると思うが、ここであえてこころの健康を強調して表現したのは何か意図があるのか。
第3章 都民の健康をめぐる状況			
2	第二	第2節 (生活習慣等)	全体の図表のつくりについて、10歳刻みで年代別になっている。高齢期の65歳以上を再掲で載せている図表も一部あるが、それ以外の図表は基本再掲は載らないのか。もし可能なら、65歳以上の再掲と20～64歳の再掲が載っている方が色々扱いやすい。
3		第2節 (生活習慣等)	65歳以上と65歳未満が全てのデータであった方が、市町村が活用する際も多分おそらく役に立つのではないかと。10歳ごとのきめ細かい目標設定や層別した取組はなかなかできず、おそらくどの市町村でも65歳以上と65歳未満に分けて、施策の取組を考えていくと思う。そのためにもこの2つの再掲は全ての分野において載せていただければいいか。
4	第三	第2節 (生活習慣等)	重点分野のうち、誰もがアクセスできる健康増進のための基盤整備は、健康経営に取り組む企業数の推移の図表しかなく、心もとない内容の記述になっているように感じるが、第4章をみると「働く世代の生活習慣病予防の取組の一層の推進が大事だ」と読み取れる文章があるので、より一層の推進が分かるようなデータを示すとか、もう少し図表があると良い。
5		第2節 (生活習慣等)	社会とのつながりというところで、主観的健康感と、父母の地域の子育て活動への参加経験の図表が掲載されているが、第三次では地域のつながりを持っていると思う人の割合を指標として設定する。そのことが本章では書かれていないのに、突然設定されることに、やや違和感を感じた。
第4章 プラン21(第三次)の目指すもの			
6	第一	第2節 (重点分野)	「誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備」は、こころの健康、女性の健康に比べると分量が少なく、一般の読者には「基盤」というのがどういうことなのか分かりづらい。具体例を入れるともう少し分かりやすくなるのではないかと。
7		第2節 (重点分野)	国の骨太方針で、「日常の生活動線ですぐに健康になれる」ということで職場や家庭、地域で健康を促せるような基盤づくりという内容があったため、そういったことも、「基盤」について整理するうえで参考にするとよいと思う。
8		第3節 (都民の役割)	「健康づくりは個人の自覚と実践が基本であることから」の表現はそのとおりだが、「自分でやりなよ」というような突き放した印象が感じられる。国の健康増進法第2条に「国民は生活習慣の重要性を理解し、自らの健康状況の自覚のもとで健康増進してください」という内容があり、文言を短くまとめているという点ではこれでいいが、計画では「まずは自分で」「できない場合には…」と読めてしまうため、柔らかく補ったほうがよい。
9	第三	第3節 (都民の役割)	糖尿病などの領域では「生活習慣」を強調しすぎると、あたかも本人の生活習慣が悪かった、自己責任で糖尿病のような疾患になっているというような「患者への偏見を助長している」という議論がされているため、自覚と実践が基本であることはそのとおりだが、同じような実践をしていても、病気になる人とならない人がいるため、「自己管理」や「生活習慣」を強調しすぎないことが重要。もししたら「生活習慣」という用語自体、数年以内に使うべきではない用語になる可能性もあるため、柔らかい表現に変えるとよい。
10		第3節 (都民の役割)	都民の役割の5番目、「健康づくりがしやすい環境整備を進めるために自治体の施策に関心を持つことも重要です」、この環境整備を進めるのは誰というのがこの文章では曖昧。健康づくりをしやすい環境整備をするのは自治体、企業など都民の周囲の人たちと考えると、その整備をするために都民に関心を持たないといけないという記述に違和感を感じる。 健康づくりをしやすい環境整備を進めるために、都民に自治体の施策に関心を持ってもらうようにすることが、自治体にとって必要ですと区市町村の役割の記述のところに書くべき。

番号	部会	項目・分野	御意見
11	第一	第3節 (推進主体の役割)	「3 企業等への働きかけ」の企業の中には、「サービス産業の企業」と「保険者協議会」が含まれているという理解か。
第5章 総合目標及び各分野の目標と取組			
12	第二	栄養・食生活 身体活動・運動 休養・睡眠	学校等教育機関の取組で、「健康教育をより一層充実するとともに、健康的な生活習慣の確立を支援する」というのはあまりにも抽象的。全体的な健康づくりの目標ならこれでよいが、もう少し各分野具体的に目標などを定めていただくことはできないか。もう少し具体的な取組のアイデアを出していただければいい。
13		栄養・食生活 身体活動・運動 休養・睡眠	食生活関係であれば、「食育の推進」は計画を作っているから、あまり具体的なことは書き込めないにしても、もう少し書けることはあるのでは。それはおそらく身体活動も同じ。
14		身体の健康	主にロコモティブシンドローム、運動器症候群をターゲットにした項目と認識しているが、あえて「身体の健康」という分野名を設定した理由は、「身体の健康」という表現は単純に、その言葉を初めて目にした人は、肥満でも動脈硬化でも高血圧でも全部「身体の健康」なのに、なぜここで「身体の健康」と言っているんだろうと思われるかと。運動器の健康であったり、足腰の健康など、他の表現もあるかと思う。
15		身体の健康	「身体の健康」は非常に幅広い広範な範囲を含むように捉えるのがむしろ一般の人。生活機能とかは考えないと思うし、項目だけ見るとかえって誤解を与えませんかということかと思う。第二部会からはそういう意見が挙がったということで、一度(推進会議に)挙げてもらって検討してもらったほうがよい。
16		歯・口腔の健康	高齢社会において、オーラルフレイルを予防するというのは重要な問題。指標4つ目の「何でも噛んで食べることができる者の割合」はオーラルフレイルを意識して設定されているのはよいが、一方で、都民、推進主体の取組のところを見ると、オーラルフレイルの言葉がほとんど出てこない。オーラルフレイルにフォーカスできる取組というのは無いのか。
17		歯・口腔の健康	推進主体の取り組みのところ、「かかりつけ歯科医が果たす役割」というのはどうということかと思った。健保の取り組みだと歯科健診を保険者が実施したりしているところもあるので、「健診」というところを入れていただくといいのかなと思った。
18		こころの健康	自殺対策で、現状と課題に自殺関係としては若者世代や女性という表現が出ているが、取組の方向性でこの点がかかれていない。国や都の計画でも、女性や若者支援について書かれていたかと思うので、今後の方向性のターゲットが抽象的なところが多いので、もう一つ项目的なところが入っていてもいいかと思った。
19		社会とのつながり	区市町村の取組の「うつ傾向や不安の強い人に対して、周囲の人が支援しやすくなるよう」というのは、地域住民とかそういうことを想定されているのかと気になった。非常にプライベートな問題に周りの人がかかわるといのはちょっと問題だっさりすると思った。
20		自然に健康になれる環境づくり	「自然になれる健康になれる環境づくり」は、身体活動など具体的な取組を書き込んでいくとか、少し工夫が必要。
21		自然に健康になれる環境づくり	分野別目標「無理なく自然に健康づくりにつながる行動を取ることができる」は、言い方もかなり回りくどい感じがするので、どうなのかなと改めて見ていると感じる。
22		自然に健康になれる環境づくり 誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備	「自然に健康になれる環境づくり」と、「誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備」という2つがあるが、前者は意図や意識が無く、何も考えなくても健康になれるという意図、後者は健康になろうと思った人がバリアが無く、健康づくりに取り組めるように環境整備するという、本人の意図の有無、リテラシーの高い人・低い人、意図や態度の違いの両方に配慮して健康づくりできるような環境整備をしなければいけない、アプローチは違うだろうということで分けて作られたかと思うが、今のタイトル含めてその意図がなかなか伝わりにくいのかと思う。
23		誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備	「誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備」について、都民以外すべて意識変容、行動変容つながるよう・・・と書かれているが、であれば分けて書く必要はなく、まとめて書くほうがよいかと思う。特に環境整備はバラバラにやるといよりは一緒にやるようなものもあり、この書きぶりは考えたほうがよいかと。たしかに主体別はいいのだが、区別が無いのであれば、むしろ「主体が一緒になってやる必要がある」とか表現を工夫されるとよい。
24		第三	高齢者の健康
25	第二	女性の健康	「女性の健康」は、取組のアイデアが学校だけない。「女性の健康」を考えると、学校でどういう教育をするのかはとても重要。小中高全般を通して、ジェンダーの教育ももちろん必要なのかもしれないし、ぜひ考えていただきたい。ここも「ライフステージに応じた健康問題に関する知識について普及啓発を行う」ばかりだが、もう少し具体的にお書きになれる箇所はないか。